

## 実施体制及び国内外のネットワーク

<b>提案主体名</b>	株式会社アバンアソシエイツ
<b>提案プロジェクト名</b>	ポリシーミックスによる『環境都市づくり』の検証的先行実施
<b>① 実施体制（構成主体と役割分担）</b>	
<p>※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。</p> <p>I 前例のない実施体制を準備する 「環境価値」「社会的価値」「経済的価値」をテーマに、全国6都道府県から候補地を選抜する形で、ポリシーミックスによる『環境都市づくり』の検証的な先行実施を行う。しかも東北震災への復興貢献や、人口流動化を視野に入れる。…このような壮大なプロジェクトは、これまで前例がなく、永田町にも霞ヶ関にも全国どこにも現時点では、その実施体制の原型すら存在しない。どうしたら、そのような前人未踏の責務を担う新たな実施体制を組めるだろうか？ まずは下記Ⅱで、想定される「構成主体」と「役割分担」の形式を整えていく従来型アプローチを整理し、さらに下記Ⅲで、より実質的な体制構築アプローチを紹介する。</p> <p>Ⅱ プロジェクト実施体制の形式的アプローチ 構成主体A. プロジェクトリーダー：プロジェクトチームの内外から「絶対的な信頼」が集まる求心力ある存在。信頼を維持し続けるには、優れた「マネジメント力」の資質が条件。そしてマネジメント力とはPドラッカー流に言えば、下記の3構成主体や外部協力者の「強み」を束ねる能力である。 構成主体B. スポークスマン：不特定多数の関係者や市民に本プロジェクトの情報をタイムリーに発信するだけでなく、情報の受信も担当して、多方面との関係調整を行う。心情的な推察力と心配りが要求される。 構成主体C. 多彩な調査＆実施集団：6都道府県の各候補地で、テーマ別に実際の『環境都市づくり』検証的先行実施を担当する。一定期間、候補地に派遣され、現地メンバーと協働。成果モニタリングまで行う。豊富なマンパワーが必要とされる。 構成主体D. プレイン：本プロジェクトの初期期に体制構築を担う。実施期には各候補地のテーマを横断した検証を担う(…ポリシーミックス)。終了期にはプロジェクトの次なる展開を考案する。常にプロジェクトリーダーと認識を共有し、予見される問題を事前に解消していく。数名の少数精鋭で構成。</p>	
<b>② 実施体制（プロジェクトマネジメントのための具体的な方法論）</b>	
<p>※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。</p> <p>Ⅲ 実施体制構築への実質的アプローチとプロジェクトマネジメント まずはプロジェクトリーダーの選定について。多くの場合、その人物の「信頼性」「求心力」「引率力」「マネジメント力」は事前には潜在的であり、選ばれてから判明するケースが圧倒的である。またリーダーはプロジェクトの「顔」だが、その首を仮に取られても引換えにプロジェクト自体が持続する方が、より重要である。『環境都市づくり』の先行実施は、知恵と労力と時間の積重ねであり、簡単に頓挫できるものではない。そのため、むしろリーダーに過信を置かず頼り過ぎないシステムが持続的かつ望ましい。 リーダー選定には公募による民間からの登用が一案である(…期間を定めて満了後は原則的に更新不可)。構成主体BとD中心に公正かつ戦略的に選定する。そして選んだリーダーのマネジメント方針には、チーム全体が一丸となって従う(…ex.ベルリンフィル常任指揮者の選出方式)。 次にスポークスマンについて。これは省庁を跨いで柔軟に横動きのできる、内閣官房(地域活性化統合事務局)に引受けて頂けるのがベスト。次世代への橋渡しとなる国家的な本プロジェクトの推進役的な「窓口」に。 多彩な調査＆実施集団の募集は、いわゆる「英知」を結集させて、彼らに実現の場を提供するもの。例えば、外食産業と高齢者ケアビジネス融合の先導者、自然居住を志向する特定のクリエイター集団、利用権と一対となる『総有論』の提唱者等、環境未来都市に向けた新たな試みを部分的に既に始動している人材には、特別な協力依頼も考えられる。また、「英知」の募集は国内に止まらない。一定割合の海外チームを本プロジェクトに組込むことも重要(→下記Ⅳ参照)。 そして最後にプレインの特定について。資質的な条件により候補(組織・個人)は限定的と考えられる。①特定の利害に偏らず、長期間プロジェクトで求められる『良心的な黒子性』に徹しつつ持続できること、②高度な予見性や分析・判断能力を備えた人材(個人)が存在して本件を担当すること、③プレインを構成する少数メンバーどうしが相互に異質で、死角を補える関係にあること。 (…なお、実際に本プロジェクトが採択される場合は、プロジェクト提唱者であるアバンアソシエイツ・メンバーのプレイン参画が必須…プロジェクト始動への基礎準備から)</p>	
<b>③ 国内外のネットワーク(国内外のベストプラクティスの相互交流のための具体的な方法論)</b>	
<p>※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。</p> <p>Ⅳ これまでの国内外ベストプラクティス素材を、本プロジェクトで都市スケールへ展開するという考え方 環境価値、社会的価値、経済的価値。どのジャンルで見ても、まだ国内では都市規模での成功事例がなく、プラクティスは断片的かつ「たかだか現時点までのベスト」と言える。それらの光るアクティビティに、『環境都市づくり』先行実施の場で、全国・世界からのビジネスモデルの移植と都市スケールへの展開機会を提供する点が重要である。 例えば、首都圏で試行中の高齢者コミュニティへの食デリバリーシステム、新潟三条市の歩いて健康な市街地への再編構想、そして海外はベナン(マレーシア)から医療リゾートの先端手法を、いっせいに山口市へ集中投下する。この分野の先駆者・成功者を全国や世界から招聘することで、山口市を中心とした巨大なネットワークが形成され人口流動化。新雇用や特殊マーケットが副次的に生成される。最も高齢化の進んだ県庁所在市の状況を逆手に取る着想であり、この試みが成功すれば将来の高齢化日本に与える影響は計り知れない。 北欧にはオスロやストックホルム、マルメなど、既に都市レベルで低炭素化に成功した事例がある。例えば、横浜市+川崎市の合同チャレンジで、それら先進環境都市の実績チームと意図的な協働化は世界的な好例を生むだろう。…『CO2容積率』指定や都市計画と連動した排出権取引、都市のコンパクト化を伴う低炭素化については北欧やドイツにも実績がなく、海外チームにとっても挑戦的。 つくば市と周辺一体の農業地帯で、定常的な人口の循環流動を生出し、地域産業の持続モデルを創出するプロジェクトは、フランスやイタリアの伝統的な大都市農村間の人口流動を手本にできる。実際に両国から個人や組織による農業家を招いて仕組み化を行うのが良い。原発による農地・牧草の放射能汚染については、つくばエリアが最も深刻ではないとしても、世界中から環境浄化の実践家を招いてグローバルに取組むことが結果的に日本の信頼度を高める。 東北復興について。例えば、3年前の2008年に7万人の命を失った中国四川省と宮城県が、姉妹連携を組んで積極的な人材交流を進めるのはどうだろうか？ 四川では農民が土地を提供。被災者さえ目を疑う新しい商業市街地へと復興し、多く雇用を新規創出した成功事例もある。心気面での日中改善に好機だけでなく、将来的には環境技術の強力なエリア間協力も視野に入れられるだろう。</p>	
<b>④ 国内外のネットワーク(国内外の都市・地域との連携を強化するための具体的な方法論)</b>	
<p>※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。</p> <p>V 本プロジェクトの検証的先行実施成果を国内外にシステム展開する ニューヨークやロンドン、香港、上海等の金融・経済都市、パリやローマのような観光文化都市、そしてマダガスカルや天津滨海新区のような先端環境都市。これまで世界で注目される都市は、その優位性を最も生かせるテーマで独自の発展を成し遂げることが主眼であった。地球温暖化時代の到来は、そのような都市発展像の修正や、一部の取組みの強化を要請するに至ったが、次なる成熟化プロセスへと都市を本格的に進路変更させる「ポリシーミックス」手法は、世界的にはまだ緒に就いたばかりの段階である。 現在の日本は、前例のない少子高齢化、人口減少、大震災、エネルギー危機、雇用の悪化、低炭素目標の達成困難、天文学的な財政赤字の複合的かつ持続的な課題と対峙しており、それらを解決する「ポリシーミックス」手法の樹立を避けて通ることができない。その適用効果は、うまく行けば早期に、人口の流動化による国土利用の効率化や、具体的な都市再編の形となって現れてくると予測される。 環境未来都市の実現は、それに至るまでの改変プロセスを着実に手法化する事が最も重要である。環境都市計画(法)への再構築をはじめ、その貴重なノウハウを世界に先駆けて日本が手にすることで、将来のグローバルな人材交流を通して世界に輸出貢献できる時期が来る。例えば近いうちには上記のニューヨークやロンドン、パリへ、そして長期的には途上国のマンハイやジャカルタ、リオデジャネイロにすら、その成熟化システムを移植提供することが夢ではなく、むしろ世界から待望されることと言えるだろう。</p>	

※別紙様式3は、可能な範囲内でご提案願います。